

笑顔とがんばりの町

おのまもち

議会だより

第1回定例会

- ◇平成24年度当初予算
40億1,500万円
- ◇小野町監査委員に先崎福夫氏
- ◇人権擁護委員候補者に佐藤信之氏
- ◇一般質問・4人の議員が登壇
(少子高齢化・病院改築・
原発事故関連・総合子ども園・
小学校統合などについて)



△小野中学校改築整備事業現地調査(3月14日)



△文部科学副大臣に原子力災害賠償等に関する要望書を提出(2月27日)



△葉たばこ播種状況現地視察(3月10日)



△第1回定例会予算審査特別委員会での審査(3月12日)

第1回定例会

3月6日～16日

平成24年第1回定例会は、3月6日から16日まで11日間の会期で開かれました。

会議では、平成23年度補正予算、平成24年度当初予算、条例の制定4件、改正18件、小野町監査委員の選任などのほか、議員提出議案7件など、49議案について原案のとおり可決しました。

また、4名の議員が一般質問を行い、町政各般にわたり町長の考えをいただきました。



▲第1回定例会

人事案件

◇小野町監査委員の選任につき同意を求めらるることについて



▲先崎福夫氏

先崎福夫委員の任期が平成二十四年三月二十一日をもって満了となるため、引き続き同氏の選任について議会の同意を求められたもので、満場致で同意しました。

◇人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めらるることについて



▲佐藤信之氏

佐藤信之委員の任期が平成二十四年六月三十日をもって満了となることから、引き続き同氏を推薦したいため議会の意見を求められたもので、満場致で候補者として適任と決定しました。

公の施設の指定管理者の指定について

小野町老人デイサービスセンターは、小野町社会福祉協議会を指定管理者として管理してきましたが、平成二十四年三月三十一日をもって指定期間が満了することから、引き続き同協議会を指定するため議会の議決を求められたもので、満場一致で可決しました。

指定期間は、平成二十四年四月一日から平成二十九年三月三十一日までです。

陳情の審査結果

第1回定例会では、5件の陳情を審査しました。結果は次のとおりです。

件名	陳情者	審査結果
福島県における脱原発の実現と、住民の命と健康を守り、補償の実現、安心して暮らせるふるさを取り戻すための取り組みを求める陳情	福島県平和フォーラム 代表:竹中 柳一	採択
森林に対する固定資産税の免税措置について	田村森林組合 代表理事組合長:早川 英二 ふくしま中央森林組合 代表理事組合長:渡辺 一夫	不採択
福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書提出の陳情	日本労働組合総連合会福島県連合会 田村地区連合会 議長:吉田 実	採択
防災対策など住民の安心・安全を支える行政サービスの体制・機能の充実を求める陳情	国土交通労働組合東北地方協議会 議長:後藤 明広	採択
「特例水準解消」による公的年金削減に反対する意見書の提出を求める陳情	全日本年金者組合福島県本部田村支部 支部長:佐藤 一正	採択

議員提出議案の審査結果

陳情を受け、議員提出議案により意見書を内閣総理大臣等に提出しました。

議案名	提出者	審査結果	提出先
福島県における脱原発の実現と、住民の命と健康を守り、補償の実現、安心して暮らせるふるさを取り戻すための取り組みを求める意見書	宇佐見留男 議員	全員賛成で可決	内閣総理大臣 総務大臣ほか
福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書	籠田良作 議員	全員賛成で可決	内閣総理大臣 厚生労働大臣ほか
防災対策など住民の安心・安全を支える行政サービスの体制・機能の充実を求める意見書	会田明生 議員	全員賛成で可決	内閣総理大臣 国土交通大臣ほか
「特例水準解消」による公的年金2.5%削減に反対する意見書	宗像芳男 議員	全員賛成で可決	内閣総理大臣 厚生労働大臣

意見書とは… 「地方公共団体の議会は、公益に関する事件につき意見書を国会又は関係行政庁に提出することができる(地方自治法第99条)」とされています。公共の利益の増進を図るため、議会に認められている権限です。

平成24年度当初予算 40億1,500万円 (一般会計)

平成24年度当初予算は下の表のとおり、全員賛成で可決しました。

平成24年度当初予算は、東日本大震災、及び東京電力福島第一原子力発電所事故による災害からの復旧・復興を基本とし、子育て支援、幼児教育環境整備、企業誘致推進、雇用確保、浄化槽整備推進事業、未舗装道路の計画的な整備など、選択と集中による予算配分がなされました。

なお、今年度より除染対策事業特別会計が新たに設置されました。これは、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い実施する除染事業の円滑な運営と経理の適正化を図るため、歳入と歳出を一般会計と区別し特別会計として実施するものです。

平成24年度当初予算(千円)

会計区分		当初予算額	前年度との比較	
一般会計		4,015,000	△10,000	
特別会計	国民健康保険	1,251,147	△59,104	
	後期高齢者医療	101,730	△1,710	
	除染対策事業	47,192	47,192	
	介護保険	957,966	5,614	
	介護保険サービス事業	3,853	361	
	浄化槽整備推進事業	106,043	△69,923	
	文化・体育振興基金	3,091	9	
	水道事業	収益的収入	149,965	598
		収益的支出	148,095	179
		資本的収入	9,238	4,593
資本的支出		107,630	14,047	

宇佐見留男議員、籠田良作議員、会田明生議員、水野正廣議員が 町政各般について質問を行いました。

町長 人口増加対策は人口増加につながる施策を推進する

このような急速な人口減少に歯止め策を講じなければならぬと思

町長 小野町の経済情勢については人口の維持・増加を図

町にあって大きな課題であります。安心して子供を産み育てる環境の整備、定住しやす

町長 各種施策に積極的に取り組む

高年齢者の福祉や地域医療の充実など、町全体の福祉向上のためどのような施策を進めるのか、町長の考えを伺いたい。

町長 町の基幹産業について

町を代表する葉たばこ産業が、昨年の原発事故以来、休作を余儀なくされ、廃作する農家も多く、半数近くの農家が廃作することでありま

町長 支援に係る経費を当初予算に計上

家や農地所有者に支援策を講じる考えがあるか、伺います。

ます。

各種定住二地域居住推進事業の展開、雇用の場の確保対策としての企業誘致の促進など、人口増加につながる施策を積極的に推進してまいりたい。

保育料の軽減、子ども医療費の対象年齢拡大、放課後児童クラブ・放課後子ども教室の開設、特定不妊治療費の助成など、保護者の経済的負担の軽減、子育て環境の充実を図ってまいりました。また、幼稚園と保育所の機能を一体化させた施設、仮称「総合子ども園」の整備についても、調査検討、計画立案に係る費用を平成24年度当初予算に計上し、積極的に事業を推進していくこととしていきます。

次に高齢者の福祉施策についてですが、健康で長生きをするためには介護予防が重要との認識から、地域包括支援セン

ターと連携しながら様々な介護予防事業を実施してまいります。このほか、高齢者活動を支援するため、老人クラブやシルバークラブへの助成を継続いたします。一人暮らし高齢者に対しては、閉じこもりを防止し相互に助け合う機会を持つていただくため、単身高齢者お楽しみ会を開催するとともに、緊急通報システムを整備し、非常時に町や近所の方がすぐ駆け付けられるよう支援します。また、介護保険サービスの安定的供給に努め、在宅や施設での介護支援を行ってまいります。

少子高齢化について



宇佐見留男 議員

小野町の人口減少について

小野町の人口は、昭和30年には1万7千人でしたが、平成17年の国勢調査では1万2千人余りと大きく減少しており、本年2月号の「広報おのまち」によると、平成24年1月1日現在で1万946人となっております。

町にとって大きな課題であります。

重要課題として取り組む

既存企業の育成、新規の企業誘致をまちづくりの最重要課題として全力で取り組み、一人でも多くの雇用の場を確保してまいりたい。

住民福祉について

子供から高齢者まで誰もが元気で生き生きと快適に暮らすために、さまざまな福祉施策が必要です。保育環境の充実などの子育て支援、高齢者が生き生きと暮らすための高年齢者福祉や地域医療の充実など、町全体の福祉向上のためどのような施策を進めるのか、町長の考えを伺いたい。

農業情勢について

町を代表する葉たばこ産業が、昨年の原発事故以来、休作を余儀なくされ、廃作する農家も多く、半数近くの農家が廃作することでありま

平成24年3月補正予算

会計区分	補正額(千円)	予算総額	
一般会計	160,116	5,821,494	
国民健康保険	17,384	1,282,573	
後期高齢者医療	▲1,447	97,455	
介護保険	▲19,967	976,578	
介護保険サービス事業	440	3,932	
浄化槽整備推進事業	▲91,264	84,384	
文化・体育振興基金	621	3,703	
特別会計 水道事業	収益的収入	▲3,789	147,191
	収益的支出	▲6,595	144,012
	資本的収入	▲1,052	8,222
	資本的支出	▲6,019	101,882

平成24年3月の補正予算は右の表のとおり、全員賛成で可決しました。

収入では、町税や土木施設災害復旧費国庫負担金の減額を見込みましたが、特別交付税や震災復興特別交付税、東日本大震災復興支援交付金などが増額となりました。

支出では、自治体クラウド型基幹行政システム整備業務委託料、国民健康保険特別会計繰出金、公立小野町地方総合病院企業団への負担金、一部損壊被災住宅修繕工事費助成金などを増額したほか、感染症予防事業委託料、田村東部環境センター分担金などを減額する内容です。

国民健康保険・後期高齢者医療・介護保険・介護保険サービス事業・浄化槽整備推進事業などの特別会計では、年間の事業費見込み額を決算に向け調整しました。

関係大臣や県選出国會議員へ要望活動を実施

小野町議会では、2月27日と28日の両日、関係大臣や関係省庁、並びに県選出国會議員へ、原子力災害賠償や除染対策、農林・畜産等に係る風評被害対策や福島県民の健康対策等について、全議員で要望活動を実施してきました。



▲玄葉光一郎外務大臣への要望活動



▲増子輝彦参議院議員への要望活動



▲荒井広幸参議院議員への要望活動



▲岩城光英参議院議員への要望活動



籠田良作 議員

農家に対し、10アール当たり2万円の報償金を支給し、意欲を持って農業を継続していただくことも農地の有効利用を図るための経費を当初予算に計上いたしました。

問題解決に向け努力したい

また、畜産への移行を希望されている農家も多いとお聞きしているため、農家がスムーズに転換できるよう、優良基礎肉用、乳用雌牛導入事業補助金を拡充し、併せて当初予算へ計上いたしました。

原発事故後の農家について

原発事故後の畜産農家について、放射性物質の影響で枝肉価格が低迷し、子牛価格が暴落したことは残念であります。東電の賠償も全額とはならず、繁殖農家の経営は逼迫しております。さらに、和牛繁殖雌牛の老廃牛の出荷が滞り、繁殖牛を更新できない上、飼料代

など経費がかかり、経営を圧迫しております。このような状況を町長はどのように考えているか、伺います。

町長 東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質の放出により、事故当初から畜産経営には大きな被害を及ぼしました。一年が経過しようとしている今でも、牧草の給与の問題、老廃牛の処分の問題等が山積みされ、飼料代等の経費がかさみ、逼迫している畜産農家のことを考えると、私も強い憤りを感じています。

今後は、損害賠償請求も視野に入れ、国・県の動向を注視しつつ、関係団体との二層の連携を図り、問題解決に向けて努力してまいります。

医療体制の充実について

公立小野町 地方総合病院の改築について

今回の震災により、2市1町2村の出資により企業団として構成運営されている公立小野町地方総合病院が大打撃を受けました。

2月に福島県浜通り地方医療復興計画(素案)の概要が発表され、その中に課題として双葉エリアの医療機関の再開支援、近隣医療圏との連携強化があり、いわき医療圏との連携、公立小野町地方総合病院の施設整備が概要として明記されています。また、他の医療圏との連携の中に、田村市が企業団の構

病院の改築に向け、私も先頭に立って取り組む

その結果としまして、このたび県より示された浜通り地方医療復興計画において、川内村を始め阿武隈高地の住民の医療の確保のため、公立小野町地方総合病院の改築を支援し、医療提供機能を高める等の内容が盛り込まれたものです。本計画は、現在、県において国と協議中でありますが、この機会を逃すことなく、病院企業団、病院議会、構成市町村長による理事者会が緊密な連携のもと、病院の改築に向け、私も先頭に立って取り組んでまいります。

除染対策について

除染対策における「係」の設置について

町長 公立小野町地方総合病院では、震災後に耐震二次診断を実施しましたが、施設の健全性の確保のために大幅な耐震補強、あるいは改築が不可欠であると判明し、早急に建替えによる整備が必要であると考えております。

これまで、あらゆる機会を捉えて構成5市町村の首長による要望活動の実施や、病院議会においても精力的に要望活動を行っていたきました。

町長 先般、平成24年度行政組織機構改正の「案」が示され、その中で、現在の町民生活課の中に除染担当を新たに「係」として設けるとありました。

除染後の仮置場の問題、周辺住民の健康の保護、生活環境の保全、除去土壌の

農地利用策について

耕作放棄地の利用策について

至っております。今後も引き続き、県の復興支援策等を踏まえ、企業へのピーアール活動の実施、県等の関係当局との連携強化を図りながら、早期の誘致に向け、最大限の努力をしてみたい。

町長 先ほどの宇佐見議員の質問にもお答えしましたが、葉たばこが廃作された農地に新たに土地利型作物を付した農家に対し、10アール当たり2万円の報償金を支給し、生産意欲の低下を防止することも、農地の有効利用を図ることを目的に、当初予算に計上いたしました。

会田明生 議員



働く場所の確保について

町民の方々の働く場所の確保は行っているか

町長 町内には、長引く景気の低迷等を背景に仕事を失い、求職活動をされている方々が大勢います。2月13日時点でハローワーク郡山に求職登録している町民の方々は173名おります。一方でフルタイム労働での求人件数は、2月27日時点で73人、うち、28人が小野町の緊急雇用対策によるものです。

町長 緊急雇用等の対策は、短期的な施策としては雇用確保に貢献していると思うが、住みなれた地域で安心して安定した

町長 緊急雇用等の対策は、短期的な施策としては雇用確保に貢献していると思うが、住みなれた地域で安心して安定した

町長 緊急雇用等の対策は、短期的な施策としては雇用確保に貢献していると思うが、住みなれた地域で安心して安定した

町長 緊急雇用等の対策は、短期的な施策としては雇用確保に貢献していると思うが、住みなれた地域で安心して安定した

町長 緊急雇用等の対策は、短期的な施策としては雇用確保に貢献していると思うが、住みなれた地域で安心して安定した

町長 東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質の放出により、事故当初から畜産経営には大きな被害を及ぼしました。一年が経過しようとしている今でも、牧草の給与の問題、老廃牛の処分の問題等が山積みされ、飼料代等の経費がかさみ、逼迫している畜産農家のことを考えると、私も強い憤りを感じています。

問題解決に向け努力したい

また、畜産への移行を希望されている農家も多いとお聞きしているため、農家がスムーズに転換できるよう、優良基礎肉用、乳用雌牛導入事業補助金を拡充し、併せて当初予算へ計上いたしました。

原発事故後の農家について

原発事故後の畜産農家について、放射性物質の影響で枝肉価格が低迷し、子牛価格が暴落したことは残念であります。東電の賠償も全額とはならず、繁殖農家の経営は逼迫しております。さらに、和牛繁殖雌牛の老廃牛の出荷が滞り、繁殖牛を更新できない上、飼料代

など経費がかかり、経営を圧迫しております。このような状況を町長はどのように考えているか、伺います。

町長 東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質の放出により、事故当初から畜産経営には大きな被害を及ぼしました。一年が経過しようとしている今でも、牧草の給与の問題、老廃牛の処分の問題等が山積みされ、飼料代等の経費がかさみ、逼迫している畜産農家のことを考えると、私も強い憤りを感じています。

今後は、損害賠償請求も視野に入れ、国・県の動向を注視しつつ、関係団体との二層の連携を図り、問題解決に向けて努力してまいります。

除染事業を大きく進捗させると判断し新設することとした

町長 放射性物質汚染対処特措法においては、詳細なモニタリング等の汚染状況調査測定、除染実施計画の策定、仮置場の設置等を含む除染措置等の実施が、町が行うべき業務であります。平成23年度においては、町民生活課環境安全担当を中心に、この業務を担当し、関係各課等の連携により庁内全体で取り組んでまいりました。平成24年度においては、庁内全体で取り組むことはもちろんですが、専門に業務を行う除染担当部署を設置することが除染事業を大きく進捗させること判断し、町民生活課内に除染担当部署を新設することとしました。

課内に担当部署を置くこととした

町長 新たな課を設置するか、課内に担当部署を設置するかについて、様々な検討を加えた結果、平成24年度においては町民生活課内に除染担当部署を置くこととしました。除染担当部署が専門業務にあたるほか、課内の他の担当職員の手援を得られることから、機能的に除染業務を実施する有効な形態と考えております。

町長 除染事業は、町民生活課除染担当部署が総合調整を行い、全庁的に取り組めますが、今後の進捗状況の推移も見ながら、柔軟に対応してまいります。

町長 除染事業は、町民生活課除染担当部署が総合調整を行い、全庁的に取り組めますが、今後の進捗状況の推移も見ながら、柔軟に対応してまいります。

町長 除染事業は、町民生活課除染担当部署が総合調整を行い、全庁的に取り組めますが、今後の進捗状況の推移も見ながら、柔軟に対応してまいります。

町長 除染事業は、町民生活課除染担当部署が総合調整を行い、全庁的に取り組めますが、今後の進捗状況の推移も見ながら、柔軟に対応してまいります。

町長 除染事業は、町民生活課除染担当部署が総合調整を行い、全庁的に取り組めますが、今後の進捗状況の推移も見ながら、柔軟に対応してまいります。

り、国の「耕作放棄地再生利用緊急対策事業」、町の単独事業として「夢のある農業者育成事業」等を活用し、畜産農家と連携し耕作放棄地の解

消に努めてきました。今後も、農家が意欲的・安定的に経営が営め、耕作放棄地の解消につながる支援策を検討してまいります。

森林資源の活用策について

原発事故による林産物への実害・風評被害と経済活動再開対策について

問 森林面積が7割を占める当町では森からの恵みをいただいで生活あるいは経済活動に活かして来ました。

町長 林業経営における実害・風評被害は計り知れず、非常に厳しい状況にあることは、私も強く感じています。

町長 林業経営における実害・風評被害は計り知れず、非常に厳しい状況にあることは、私も強く感じています。

「一刻も早く再生を図る必要があり、林産物の活用、更には働く場所として、

町としては、このような状況下、森林の荒廃も予測されるため、間伐などの森林整備作業に対し、県からの40%の補助に加え、町単独により10%高上げ補助を行う予算を今定例議会当初予算に計上いたしました。

その後、国において去る3月2日に関係閣僚からなる少子化対策会議において、質の高い教育・保育を一体的に提供する施設として、(仮称)「総合こども園」を創設することとし、今国会へ関係法案を提出することとされています。

今後、建設候補地の選定や施設規模・運営面での検討をはじめ、施設整備に向けた取り組みを本格化させ、幼保一体化施設の早期整備を図り、子育て支援の充実につなげてまいります。

ききました。その後、国において去る3月2日に関係閣僚からなる少子化対策会議において、質の高い教育・保育を一体的に提供する施設として、(仮称)「総合こども園」を創設することとし、今国会へ関係法案を提出することとされています。

町としては、従前の制度の「認定こども園」としての整備を目指してまいりましたが、新たな

小学校の統合について

現在の取り組み状況、展望に関して

問 小学校の統合についてですが、先の定例会において會田前議員が統合計画の状況について伺ったところ、統合再編については、保護者をはじめ各地域の方々のご理解と合意形成が何よりも重要と考えており、実施時期や施設整備について様々なご意見やご要望をお聞きし

ながら計画を取りまとめたいとの答弁をされていますが、現在までの取り組み状況、及び今後の展望を伺います。

完全複式学級の統合を先行的に行う

町長 「小野町教育環境整備の基本方針」において、完全複式学級の小学校統合を先行的に行い、最終的には1つの小学

原発事故による被災者支援について

避難者に対する生活再開の場としての町有地の提供について

問 警戒区域や計画的避難区域に指定された地域の方々は、住みなれた地域を離れ、県内の仮設住宅あるいは県外での生活を余儀なくされている方は6万人を超えている状況です。

そこで、原発立地地域等に居住されていた方々で、長期にわたって自宅以外での生活を余儀なくされている方々への生活再開の場として、法務局跡地等の町有地を提供する考えはあるか、伺います。

検討してまいりたい

町長 法務局跡地を含むまちなかの町有地については、中・長期的に

校に統合し、必要となる施設整備を行うこととされています。小学校統合に関するこれまでの取り組み状況、並びに今後の展望に関しては、教育長に答弁いたさせます。

校に統合し、必要となる施設整備を行うこととされています。小学校統合に関するこれまでの取り組み状況、並びに今後の展望に関しては、教育長に答弁いたさせます。

各地域での話し合いを進めながら、慎重に検討してまいりたい

教育長 現在までの取り組み状況を申しあげますと、小野新町小学校雁股田分校については、平成20年4月に、本校である小野新町小学校に統合しました。

次に小戸神小学校、並びに夏井第二小学校について、平成22年4月に、小戸神小学校は小野新町小学校に、夏井第二小学校は夏井第一小学校にそれぞれ統合し、当面の目標であります完全複式学級の解消が図られました。統合再編にあたりましては、各地域での話し

情報収集や情報提供を積極的に進めてきた

町長 県の企業立地課及び町商工会などを通して、被災事業者や避難者の状況等について情

報収集を行うとともに、町の工業用地や空き店舗等の情報提供を積極的に進めてきました。今後も、関係団体と連携強化を図り、情報収集と提供に努めます。



水野正廣 議員

総合こども園について

総合こども園の整備について

問 先の定例会において認定こども園について伺ったところ、建設候補地や施設の規模、内容、優位な財源確保などについて検討を進めているとの答弁をいただいたが、現在までの取り組み状況、及び今後の進め方など、具体的な実施策を伺います。

施設整備に向けた取り組みを本格化させる

で、全小学校の円滑な統合につなげるため、実施時期の見極めも含めて、慎重に検討してまいります。

休業期間の利用は別途追加料金がかかります。現在50名が登録し、30名前後の利用となっています。

放課後児童への支援策と今後の対応について

放課後児童クラブ、及び放課後子ども教室について

問 放課後児童への支援策と今後の対応についてですが、現在、当町で取り組んでいる放課後児童クラブ、及び放課後子ども教室について、時間体制、料金、利用児童数などについて伺います。

放課後子ども教室は夏井第一小学校、小野新町小学校で実施

「放課後子ども教室」事業は、児童の安全安心な放課後の居場所づくりとして、国・県の補助を受け平成22年度から夏井第一小学校で

有効な支援策を検討し、進めたい

町長 今後の対応についてですが、児童生徒の家庭環境や保護者のニーズを調査の上、さらに充実するよう取り組みたい。

また、現在未実施の飯豊小学校、浮金小学校についても、各学区で、どのような放課後児童の支援策がより有効か検討し、進めたい。

こまち湖周辺整備について

現在の取り組み

状況と展望について

こまち湖周辺整備について、地域の方々の要望、訪問者等の利便性を考慮し、トイレなどの施設整備を検討すべきと考えますが、現在の整備状況と将来の展望について伺います。

地元や県との協議を含め、検討してまいりたい

町長

現在の整備状況についてですが、ダムの完成にあわせ、公園、駐車場、ベンチ、植栽、ピオトープなどを整備し、その後、あずまの設置、植樹祭による大

有害狩猟鳥獣捕獲隊に委託し、駆除にあたっていただいている

町長

原発事故による放射性物質の放出によりまして、野生のイノシシの肉から基準値を超える放射性セシウムが検出され、狩猟期間の捕獲頭数が大幅に減少し、農作物への被害が拡大することが心配されます。

現在、有害狩猟鳥獣捕獲隊に委託し、農作物への被害防止のため、献身的に有害鳥獣の駆除にあたっていたいただいています。

しかし、原発事故の影響が長引くようになると、有害狩猟鳥獣捕獲隊の意欲も低下し、捕獲隊の結成にも支障を及ぼしかねない状況です。そのため、町ではイノシシの捕獲頭数に応じた報償金の支給や狩猟免許更新時の

申請料を助成する予算を今定例会当初予算に

計上いたしました。

内部被ばく線量について

ホールボディカウンター

取り組みについて

3月下旬から児童生徒を優先し、測定を開始する予定

町長

内部被ばく線量についてですが、先の定例会において會田前議員がホールボディカウンターについて質問なされたところ、県のホールボディカウンターなどの利活用を検討をはじめ、公立小野町地方総合病院への設置について県に強く要望しているところであり、地元医師会との連携、協議を行いながら、積極的に対応してまいりたいとの答弁をされているが、その後の状況、及び今後の対応を伺う。

としては、早期に町民が測定を受けられる環境を整備するため、民間医療機関における線量測定について、民間医療機関との協議がございましたので、3月下旬から児童・生徒を優先し、ホールボディカウンターによる測定を開始する予定です。

有害鳥獣駆除について

イノシシ等の対策について

原発事故以来、イノシシなどの有害鳥獣駆除に大変苦労されている

るように聞いています

が、現在の駆除体制などについて、伺います。

国への要望活動(東京)

議会活動日誌

2月 February

- 1日 ■ 全員協議会
- 13日 ■ 田村地方町村議会議長会
- 16日 ■ 月例全員協議会
- 17日 ■ 田村広域行政組合議会2月定例会(三春町)
- 19日 ■ 第26回B&G杯ビーチバレーボール行政区親善交歓会(町民体育館)
- 20日 ■ 平成24年郡山地方広域消防組合議会2月定例会(郡山市)
- 21日 ■ 田村地区更生保護女性会研修会(多目的研修集会施設)
- 22日 ■ 議会広報編集委員会
- 23日 ■ 福島県町村議会議長会定期総会(福島市)
- 24日 ■ 第26回B&G杯室内ゲートボール大会(町民体育館)
- 26日 ■ 田村三方部親善剣道大会(海洋センター)

3月 March

- 1日 ■ 福島県立小野高等学校卒業式
- 2日 ■ 百歳賀寿贈呈式(田村市)
- 5日 ■ 百歳賀寿贈呈式(夏井)
- 6日~16日 ■ 第1回定例会
- 10日 ■ 葉タバコ播種状況視察
- 13日 ■ 小野中学校卒業式
- 16日 ■ わかば幼稚園卒園式
- 17日 ■ 田村広域行政組合2月定例会運営委員会
- 19日 ■ つつじ児童園卒園式
- 23日 ■ 小野新町小学校卒業式
- 27日~28日 ■ 国への要望活動(東京)
- 29日 ■ 例月出納検査

4月 April

- 24日 ■ 中央さくら保育園卒園式
- 26日 ■ 小野町交通対策協議会(多目的研修集会施設)
- 27日 ■ 例月出納検査
- 29日 ■ 郡山地方広域消防組合議会第1回臨時会(郡山市)
- 30日 ■ シルバー人材センター平成23年度第2回定期総会(保健福祉センター)
- 31日 ■ 小野町連合婦人会定期総会(多目的研修集会施設)
- 3日 ■ 中央さくら保育園入園式
- 6日 ■ 小野中学校入学式
- 9日 ■ 小野わかば幼稚園入園式
- 20日 ■ 第27回小野町長杯ゲートボール大会(小野運動公園)
- 22日 ■ 消防団春季検閲式
- 25日 ■ 例月出納検査
- 26日 ■ 田村地方婦人会連絡協議会定期総会(夏井多目的研修集会施設)
- 27日 ■ 平成24年度小野町民生委員協議会総会(母子健康センター)
- 29日 ■ 第3回こまち桜回廊まつり

笑顔でがんばってまわす!

このページでは、笑顔でがんばる町民のみなさんを紹介しまわす。今回は、「夏井川花咲く水辺の会」を紹介しまわす。インタビューには会長の会田則夫さん(夏井)が応えてくれました。



▲会長の会田則夫さん

どのような活動をしていますか?

もともと、夏井川の千本桜の手入れを目的にボランティア活動として始まりました。会員は90名ほどいます。現在は桜の周辺の草刈り、堤防に植えたツツジやスイセンの手入れなどを行っています。昨年は桜の除染活動なども行いました。年に15日くらい活動しています。



▲活動の様子

やって良かったと思ったことは?

自分たちの地域は自分たちで守るという気持ちでやっており、きれいに環境整備をして、桜やツツジやスイセンなどが咲いたときなどに、やって良かったと思います。また、桜を見に来た人たちに喜んでもらえれば良いと思ってやっています。



▲活動の様子



▲活動の様子

今後の活動の計画や目標は?

現在、会員が高齢化してきており、参加する人が徐々に少なくなってきているので、若い人たちに、ぜひ会員になって参加してほしい。毎回でなくとも、桜に堆肥を施肥するときや、桜の周囲の草刈りなどの時が、特に人手が必要なので、そういう時だけでも参加してほしい。

最後にひとこと

地域のことなので、みんなで地域を守ろうという気持ちで、一人でも多くの人に会員になって参加してほしい。せっかく、これまで千本桜の手入れと環境整備をしてきたので、これからも今の千本桜の環境を守っていきまわす。

(インタビューは、議会広報編集委員会が行いました。)



- 写真前列右より
- 委員 宇佐見留男
- 委員長 村上 昭正
- 副委員長 久野 峻
- 委員 竹川 里志
- 写真後列右より
- 委員 田村 弘文
- 宗像 芳男
- 会田 明生
- 吉田 康市

議会広報編集委員会

今後も、皆さまに愛読され親しまれる広報誌になるよう委員一同努力していきますので、ご支援をよろしく願います。

議会は、皆さまに愛読され親しまれる広報誌になるよう委員一同努力していきますので、ご支援をよろしく願います。

議会は、皆さまに愛読され親しまれる広報誌になるよう委員一同努力していきますので、ご支援をよろしく願います。

•あ•と•が•き•